

東日本大震災を境として、日本の電力事情は大きく変わりました。

平成24年7月からは再生可能エネルギーなどの固定価格買い取り制度が始まりました。全国でメガソーラーの建設が決定されるなど、電力を巡る企業の動きが活発化し、個人の住宅にソーラーパネルを設置する動きも進んでいます。

住宅用のソーラーパネルなど太陽光を利用した発電機器の普及率は、総務省の住宅・土地統計調査で知ることができます。図は、この普及率と気象庁の公表している日照時間を組み合わせたものです。

平成20年の普及率は、高い方から佐賀県が3.04%、宮崎県が2.73%などで、日照時間は2000時間前後です。一方、低い方からは北海道が0.32%、東京都が0.37%、青森県が0.45%などで、一部例外はあるものの日照時間が1600時間程度で、やはり普及率と日照時間の長さは関連があるようです。

山口県の日照時間は全国平均程度ですが、普及率は第8位で日照時間に比べて普及が進んでいます。

住宅・土地統計調査では、住宅や土地に関するさまざまなデータを知ることができますが、この10月1日に5年ぶりに調査が実施されます。今回の調査から県内すべての市と町でインターネットによる回答もできるようになりました。

ご紹介した普及率は5年前のもので、それ以降固定価格買い取り制度、エコ住宅に関する各種補助や融資制度が充実されていますので、現在はどれだけ数字が伸びているか、調査結果が楽しみです。

ぜひ調査へのご理解とご協力をお願いします。

